

題名 港湾整備におけるサンゴ移植技術について

那覇港湾・空港整備事務所 企画調整課 企画調整課長 ◎與那嶺 和史

企画調整係長 ○林 佳克

1. 目的

沖縄県の海域には美しいサンゴ礁が広がり、観光資源としても重要な役割を果たしている。近年、社会資本整備において環境への配慮が特に強く求められており、港湾整備においても重要なものとなっている。

那覇港において、クルーズ観光の進展のために平成19年に大型旅客船占用バースが整備されることになったが、事前調査においてバースの整備予定地にサンゴ群集が確認された。そのため「サンゴ礁と共生する港湾整備」の観点から、本事業の影響を受けるサンゴの避難を目的として100～200群体を目安に移植が行われることとなった。さらに、本移植試験を「サンゴ群集の保全再生技術」の試験施工と位置づけ、今後の事業に活かされるように、モニタリング調査を通じて得られた技術上の問題点や課題への対応策を整理することも目的とした。

2. 内容

①サンゴの移植方法について

既往の移植技術の知見を踏まえ、移植サンゴを採取・運搬・固定を実施した。

②モニタリング方法について

全移植サンゴを対象として、移植直後、1ヶ月後、6ヶ月後、2年目以降は1回／年の頻度で目視調査を実施した。

3. 結論

本移植試験の結果、移植したサンゴは2～3年の間は、移植直後と同等のサンゴ面積が維持され、港湾の奥部のような海域であってもサンゴ移植技術が適用可能であることが示された。

4. 今後の問題点

移植技術の有効性等はモニタリング調査等により確認されたが、自然的（台風）な物理かく乱の影響を受けるとサンゴが著しく死滅、消失することも明らかとなつたため、今後の事業に向けて対応を検討していくことが必要となる。

